

1. 事業活動の概況に関わる事項

1. 2019年度事業活動の概況

(1) 調査研究事業（公1）をすすめました。

①第8次中期計画重点テーマの研究をすすめました。

1) ワークライフバランス研究会（継続 座長：佐藤博樹 中央大学大学院教授）

・第13回研究会（5月21日）、第14回研究会（7月10日）を行い、全国研究集会のプログラムの検討や、単行本の内容について論議しました。

・成果報告として、第29回全国研究集会（10月5日）を開催しました。単行本『ダイバーシティ経営と人材マネジメント』を2020年2月に刊行しました。

2) 若年層調査

・20代・30代の傾向を把握するため、日本生協連が3年に1度行っている全国生協組合員意識調査の分析を行いました。

・日本生協連が実施した「若年層（20代・30代）意識調査（Web調査、デプスインタビュー）の調査票作成、助言、分析を行いました。

・外部の研究者や地域生協職員とで構成する研究会の立ち上げを準備しました。

②国際協同組合運動の調査研究および発信の強化に取り組みました。

1) 6月24～27日に山崎研究員が第7回 EMES（社会的企業に関する国際学会、英国シェフィールド）に参加し、日本の医療生協に関する報告を行いました。あわせて、ロッヂデールを視察訪問しました。

2) 12月12～14日に近本研究員が第14回 ICA-AP 研究者会議（国際協同組合同盟アジア・パシフィック協同組合研究会議、オーストラリア・ニューカッスル大学）に参加し、日本の子育て支援領域で働く人々の研究について報告しました。あわせて、オーストラリアの協同組合やNPO・NGOについての研究を調査しました。

3) 収集した国際情報や参加会議報告等を『生活協同組合研究』に掲載しました。

③課題別の研究会の取り組みは以下の通りです。

1) 協同組合法制度研究会（継続 座長：栗本昭 連帯社会インスティテュート教授）

・日本の協同組合法制度の課題整理と、今後のめざす方向（案）の提案を目的に、6回の研究会を開催しました。

・3期6年間の研究会活動の積み上げとJCA（日本協同組合連携機構）の動向など情勢の変化に鑑み、「協同組合基本法」に焦点をあてて「提言」をまとめ、『生協総研レポート』No.92として3月に刊行しました。

2) 生協共済研究会（継続 座長：岡田太 日本大学商学部教授）

・共済・保険事業に関わる先進的な分野の研究を報告するとともに、中長期的な視点で共済事業のあり方の研究をすすめることを目的に、6回の研究会を開催しました。

・研究会の成果報告として『生協総研レポート』No.90「生協共済研究会 2016年度—2018年度の活動」を7月に刊行しました。

・公開研究会「人生100年時代の老後資金と資産運用—生協のライフプランアドバイスの課題を考える—」を企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止しました。

・研究会の13年間の成果と到達点を集大成したものとして『生協共済の未来へのチャレンジ（仮題）』の出版企画準備に取りかかりました。

3) 生協論レビュー研究会(継続 座長:原山浩介 国立歴史民俗博物館准教授)

・第3期生協論レビュー研究会として若手研究員育成をテーマにメンバーを構成し、5回の研究会を開催しました。

・研究会の成果として、『生協総研レポート』No.91「(第3期)生協論レビュー研究会(上)」を2020年2月に刊行しました。

4) 大学生の読書を考える研究会(新規)

・2018年度の『生活協同組合研究』2018年5月号「本を読まない大学生」の特集、および公開研究会(大学生の読書を考える、2018年11月30日開催)での議論をうけて、大学生の読書をめぐる問題をより多角的により深く考えていくことを目的に2回の研究会を開催しました。

・公開研究会「大学生の読書を考える」として京都での開催を企画しましたが、台風のため中止しました。

5) 人生100年時代における健康づくり研究会

(新規 委員長:山内明子 コープみらい常務理事)

・「健康」をめぐる社会的な情勢の整理を図り、これまでばらばらに取り組みれていた生協の「健康づくり」の全国の状況を集約し、人生100年時代における日本の生協の今後の「健康づくり」の取り組みの発展方向をまとめることを目的に、2回の研究会を開催しました。2020年度末までに報告書としてまとめます。

④学会等への参加状況は以下の通りです。

1) 日本協同組合学会に近本研究員が監事として出席し、春季大会・秋季大会の開催と学会誌の刊行に協力しました。春季大会(5月25日、駒澤大学)には鈴木・近本・渡部各研究員が参加しました。秋季大会(9月6日、関西大学)には鈴木・近本各研究員が参加しました。

2) JCA 研究所交流会に小熊前事務局長・鈴木研究員が参加しました。

3) ロバート・オウエン協会の専務理事・年報編集主幹として鈴木研究員が運営参加し、理事会、研究集会の開催に協力しました。生協総合研究所では事務局業務を受託しています。

4) 日本流通学会に宮崎研究員が関東甲信越部会の幹事として参加しました。

5) 医療福祉生協連の2030年ビジョン策定プロジェクト、及び理論政策小委員会の委員として、鈴木研究員が協力しました。

6) 「地域ささえあい助成」(コープ共済連)の選考委員として近本研究員が参加しました。

7) 研究員が参加している学会は、日本協同組合学会、日本社会学会、日本家族社会学会、日本流通学会、日本フードシステム学会などです。

(2) 編集・出版・広報事業(公2)をすすめました。

①編集・出版事業について

1)『生活協同組合研究』

・月刊誌として12冊を刊行しました。(各号の特集テーマは29ページをご参照ください)

2)『生協総研レポート』

・年3冊を刊行しました。(各号のテーマは29ページをご参照ください)

3) 単行本

- ・ワークライフバランス研究会の成果報告として『ダイバーシティ経営と人材マネジメント ― 生協にみるワーク・ライフ・バランスと理念の共有』(勁草書房、2020年2月)を刊行しました。
- ・子育て期女性のエンパワメント研究会(2010～2018年)の成果報告として『子育て支援を労働として考える』(勁草書房、2020年2月)を刊行しました。

4) その他

- ・当研究所は1989年に創立され、2019年で30周年を迎えました。30周年誌として『新しい地域社会をめざして 生協総研30年のあゆみ(1989-2018年度)』を11月に刊行しました。

② 広報事業について

- ・ウェブサイトの週次メンテナンスを継続し、直近の研究会報告や国際会議・調査報告などピックアップ情報を提供しました。

③ 生協総合研究所ネットワークについて

- ・メールマガジンを毎月定期発行しました(登録者数は527名、2020年3月31日現在)。

(3) 教育・研修事業(公3)をすすめました。

① 第29回全国研究集会

- ・2019年10月5日(土) 明治大学 リバティタワー1F リバティホール、参加者:206名
テーマ:生協職員が生き活きと働き続け、定着できる職場づくりのために―一生協の未来を担う人材の確保と育成―
- ・2017年4月に立ち上げた「ワークライフバランス研究会」の調査結果をもとに、職員が自ら希望する形で仕事と生活のバランスを取りつつ、意欲的に仕事に取り組めるようにするためにはどうすれば良いかについて議論を繰り広げました。(当日プログラムは30ページをご参照ください)

② 公開研究会

- ・公開研究会を全6回開催しました。企画は8回でしたが、台風や新型コロナウイルス感染拡大防止により、2回を中止しました。(開催テーマは31ページをご参照ください)
- ・地域生活研究所(東京)をはじめ、様々な組織と共催で公開研究会を行い、交流をすすめました。

③ 生協総研賞

- ・くらしと生協についての研究と実践を推進することを目的として、表彰事業と助成事業を行っています。

1) 表彰事業

- ・第12回表彰事業(隔年事業)の推薦募集を行い、選考委員による厳正な選考の結果、研究賞1点、特別賞2点の受賞を決定しました。(表彰作品は32ページをご参照ください)
- ・第12回表彰事業受賞式を開催し、選考委員からの講評と受賞者・出版担当者からのスピーチを頂きました。(12月11日)

2) 助成事業

- ・第17回助成事業の募集を行い(応募締切:7月31日)、65件(個人研究39件・共同研究26件)の応募がありました。選考委員による厳正な選考の結果、助成対象として個人研究5件、共同研究3件を決定しました。(助成対象研究は32ページをご参照ください)

- ・第16回助成事業対象者の最終報告論文集を2020年2月に刊行しました。
- ・第16回助成事業報告会を開催し、7件の報告が行われました。(2020年3月6日)

④「生協社会論」講座

- ・大東文化大学の前期正式カリキュラム・全学共通講座「2019年度現代社会の諸問題 A(生協社会論)」として開講しました。さまざまな学部からの履修者133名に加え、外部からの一般公募による9名が受講し、全14回、7月17日をもって終了しました。各回の講義内容報告をウェブサイトに掲載しました。(各回のテーマは33ページをご参照ください)
- ・2020年度も大東文化大学で全11回の講座を計画し、シラバスを作成しました。

(4) アジア生協協力基金・助成事業(公5)をすすめました。

①2019年度国際協力助成企画(企画内容は34ページをご参照ください)

- ・日本生協連の国際活動委員会より、助成対象となる6企画が推薦され、アジア生協協力基金運営委員会での承認を経て当研究所理事会で決定しました。
- ・助成総額600万円に対し、執行率94%、執行額565万円でした。

②2019年度一般公募助成企画(企画内容は34ページをご参照ください)

- ・2019年度一般公募助成企画は23組織からの応募を審査し、8組織・8企画を運営委員会、理事会で決定しました。
- ・助成総額719万円に対し、執行率86%、執行額619万円でした。現地で結核の流行があり事業を行うことが困難となったため1企画の中止がありました。

③2020年度事業計画

- ・2020年度は、厳正な審査の結果、国際協力助成企画6企画に対し合計600万円、一般公募企画8組織に対し合計724万円の助成を行うことを決定しました。

④『アジア生協協力基金活動報告書2019』を刊行しました。

(5) 受託調査事業(収益事業等・収1)の実績です。

- ・以下の調査を受託しました。

受託調査	委託元
2019年度学校生協組合員意識調査	日本生協連
若年層(20代・30代)意識調査	
今後の福祉関連事業構築についてのアンケート調査	
総代に関する調査	
ライフプランニング活動実態調査	コープ共済連
産直調査(集計・分析)	コープこうべ
全国生協組合員意識調査統計資料作成	コープ九州事業連合
2019年度福祉サービス第三者評価調査(30施設)	日本福祉サービス評価機構
日本生協連労組 家計簿調査	日本生協連労働組合
BDHQ 調査(ID登録、入力代行)	コープこうべ、自宅と実家の片づけサロン、福島県立医科大学、関西労災病院、株式会社 MASC
< 受託調査収益合計 >	552万円

(6) 日本生協連「資料室」の管理（収益事業等・他1）を受託しました。

・引き続き日本生協連より資料室（プラザエフ5階）の管理を受託しました。

・資料室の主催する CO・OP アーカイブズセミナーの開催に協力しました。

1. 『生活協同組合研究』

号数	特集タイトル
4月号(Vol.519)	生協の生活相談・貸付事業の広がり
5月号(Vol.520)	人口減少社会下の生協組合員の暮らし —2018年度全国生協組合員意識調査をベースに—
6月号(Vol.521)	日本農業の現在地を把握する
7月号(Vol.522)	外国人とのよりよい共生のために
8月号(Vol.523)	「シェアリングエコノミー」を学ぶ
9月号(Vol.524)	大丈夫か？ 大学生の食生活 —大学での食育と大学生協の食堂事業の役割—
10月号(Vol.525)	乳製品をめぐる最新事情
11月号(Vol.526)	生協の共済を取り巻く事業環境
12月号(Vol.527)	消費者庁・消費者委員会創設から10年
1月号(Vol.528)	生協職員が生き活きと働き続け、定着できる職場づくりのために —生協の未来を担う人材の確保と育成—
2月号(Vol.529)	保育・教育の無償化と子育て支援の変化
3月号(Vol.530)	食の簡便化志向の現在

2. 『生協総研レポート』

号数	タイトル
90号	生協共済研究会 2016年度—2018年度の活動
91号	(第3期)生協論レビュー研究会(上)
92号	協同組合基本法をめぐる論点と問題提起

3. 全国研究集会

<p>第29回全国研究集会 生協職員が活き活きと働き続け、定着できる職場づくりのために :生協の未来を担う人材の確保と育成 日時：2019年10月5日(土) 10:00 ～ 16:00 場所：明治大学駿河台キャンパス リバティホール</p>	
<p><プログラム></p>	
主催校挨拶	山部俊文(明治大学教授、生協総合研究所理事)
開会挨拶	中嶋康博(生協総合研究所理事長、東京大学大学院教授)
基調講演①「多様化する職員とダイバーシティ経営」	平田未緒(株式会社働きかた研究所代表取締役)
実践報告①「多様な働き方ができる人財活用の取り組み」	中川敦士(福井県民生協常務理事)
<p>パネルディスカッション</p> <p>① 多様な職員を活かす働き方と組織の在り方を考える</p> <p>【座長】 平田未緒(株式会社働きかた研究所代表取締役)</p> <p>【パネリスト】 梅崎修(法政大学キャリアデザイン学部教授) 島崎安史(エフコープ常務理事) 中川敦士(福井県民生協常務理事)</p>	
基調講演②「職場マネジメントの現状と課題」	佐藤博樹(中央大学ビジネススクール教授、東京大学名誉教授)
実践報告②「『組織の理念共有・共感』への取り組みと、『働き方改革』の取り組み」	石井亮(コープみらい・コープデリ連合会人事教育統括部長)
<p>パネルディスカッション</p> <p>② 生協の職場マネジメントと理念の共有・共感を考える</p> <p>【座長】 佐藤博樹(中央大学ビジネススクール教授・東京大学名誉教授)</p> <p>【パネリスト】 島貫智行(一橋大学大学院経営管理研究科教授) 小野晶子(労働政策研究・研修機構主任研究員) 近藤麻子(日本生協連全国生協・人づくり支援センターセンター長) 川端宏一(コープあいち管理本部統括部長) 石井亮(コープみらい・コープデリ連合会人事教育統括部長)</p>	
閉会挨拶	和田寿昭(生協総合研究所専務理事、コープ共済連理事長)

4. 公開研究会

開催日時	テーマ	共催・後援 (会場)	参加者 数
2019年 7月30日	ゲノム編集技術の食品への応用 ～消費者目線での考察～	(四ツ谷・プラザエフ 8階スイセン)	99名
8月20日	「ならコープ」の吉野共生プロジェクト :「かわかみらいふ」との協働	(四ツ谷・プラザエフ 5階会議室)	43名
9月27日	欧州における有機農業と消費者のつながり ～広がる生産者・消費者が共につくる協同組合～	共催:地域生活研究所 東京都生協連 (東京都生協連会館会議室)	26名
10月12日	大学生の読書を考える【台風のため中止】	協賛:全国大学生協連 後援:地域と協同の研究センター (ウインクあいち 1301会議室)	-
2020年 1月15日	キャッシュレス社会と流通・金融の未来	(四ツ谷・プラザエフ 9階スズラン)	144名
1月23日	生協の未来を創る ～10年後を展望したビジョンづくり	共催: 広島県生活協同組合連合会 (TKP 広島本通駅前カンファレンスセンター)	45名
3月3日	人生100年時代の老後資金と資産運用 【新型コロナウイルス感染拡大のため中止】	協賛:こくみん共済 coop コープ共済連 (コープ共済連 7階大会議室)	-
3月6日	生協総研賞・第16回助成事業論文報告会	(四ツ谷・プラザエフ 5階会議室)	40名

5. 生協総研賞

①第12回表彰事業

<研究賞>	
湯澤規子	『胃袋の近代 食と人びとの日常史』 名古屋大学出版会(2018年6月)
<特別賞>	
澁谷智子	『ヤングケアラー ——介護を担う子ども・若者の現実』 中央公論新社(2018年5月)
西川正	『あそびの生まれる場所 「お客様」時代の公共マネジメント』 ころから株式会社(2017年3月)

②第17回助成事業

<個人研究>	
地域の居場所としての子ども食堂における参加者の過ごし方に関する研究	南 潮 (鳥取短期大学幼児教育保育学科 准教授)
医療生協協同組合が運営する一病院が経営危機から立ち直ることができた要因の同定と、将来の経営安定化に必要な課題の検討	坪井 聡 (福島県立医科大学医学部疫学講座 准教授)
食を活かした地域活性化策としてのスローフード運動とスローシティ運動の役割に関する研究 —日本における今後の発展と現在の課題—	崔 瑛 (静岡英和学院大学人間社会学部 人間学科 准教授)
近代イギリスの生協と教育—組合員の主体的参加への影響について	浮網 佳苗 (京都大学大学院文学研究科 非常勤講師)
お互いさまスーパーに関する理論、実証、および、政策研究	萩原 史朗 (秋田大学教育文化学部 准教授)
<共同研究>	
北海道内の地方公共団体と生協における『買い物難民』支援の意識と協働の可能性—質問紙調査と訪問調査を通して—	江連 崇 (名寄市立大学保健福祉学部 講師)
災害後の悪質商法の実態と被害防止策についての研究—大阪北部地震・平成30年台風21号の被災地調査に基づいて—	岡本 英生 (奈良女子大学 教授)
被災地における孤独死・閉じこもり・介護の予防—専門職と地域活動の連携可能性—	野崎 瑞樹 (東北文化学園大学 教授)

6. 「生協社会論」講座

於：大東文化大学

	開催日	テーマ	講師・
第1回	4月10日	グローバル化する社会と協同	伊藤 治郎(日本生協連)
第2回	4月17日	変わる大学生活	毎田 伸一(全国大学生協連)
第3回	4月24日	学生生活を取り巻くリスク	寺尾 善喜(大学生協共済連)
第4回	5月8日	食の安全・安心を考える	早川 敏幸(日本生協連)
第5回	5月15日	大介護時代に備える	江本 淳(医療福祉生協連)
第6回	5月22日	貧困を考える	前田 昌宏(日本生協連)
第7回	5月29日	女性の社会進出	大部桂一・曾根直子(日本生協連)
第8回	6月5日	子育て支援	若松 恵子(生活クラブ生協)
第9回	6月12日	地域社会づくりへの参加	風間 志信(日本生協連)
第10回	6月19日	消費者力を高める	磯辺 浩一(消費者機構日本)
第11回	6月26日	地球温暖化対策を進めよう	新良貴 泰夫(日本生協連)
第12回	7月3日	防災・減災の重要性	武田 賢治(日本生協連)
第13回	7月10日	平和を考える	福島 加南子(日本生協連)
第14回	7月17日	生協の現在と未来	新井 ちとせ(日本生協連)

7. アジア生協協力基金

〈国際協力企画〉	
1	生協マネジャー研修 コープデリ連合会、みやぎ生協コース(参加者国籍:韓国、インド、モンゴル、フィリピン)
2	生協マネジャー研修 コープデリ連合会、コープこうべコース(参加者国籍:ベトナム、マレーシア、ベトナム)
3	ICA-AP 生協委員会主催 韓国生協開発ワークショップへの講師派遣・開催費補助(開催地:韓国)
4	ICA-AP 生協委員会主催 生協経営ワークショップへの講師派遣・開催費補助(開催地:シンガポール)
5	全国大学生協連 ICA アジア太平洋地域大学/キャンパス生協委員会セミナー(開催地:ネパール)
6	医療福祉生協連 協同組合による地域での健康づくり活動の実践教育(開催地:日本)
〈一般公募企画〉	
1	北インド農村女性の自立のための手工芸品マーケティングシステムの確立と生産・技術能力向上事業 (特定非営利活動法人アーシャ=アジアの農民と歩む会)
2	スリランカ女性住民組織による共同農業ビジネス開発と市場開拓を通じた地場産業の育成と女性のエンパワメント (特定非営利活動法人アジア・コミュニティ・センター21)
3	インド・女性グループによる持続可能な農業をめざした菜園づくりとシードバンク運営による女性の自立支援事業 (特定非営利活動法人地球の友と歩む会)
4	ネパール・サルシュカルカにおける、コーヒー生産者組合の設立・運営支援を通じたコミュニティの経済力向上・人材育成プロジェクト (特定非営利活動法人カラーバス)
5	カンボジア・保育者の保育技術向上と運営メンバーの能力強化による「村の幼稚園」の自立支援 (特定非営利活動法人幼い難民を考える会)
6	ネパール・キウイ栽培による地域の生活林再生のアグロフォレストリー (特定非営利活動法人ヒマラヤ保全協会)
7	フィリピン・ボホール州アルマール村海藻農家組合の持続的運営基盤の構築 (特定非営利活動法人ハロハロ)
8	インドハンセン病コロニーにおけるきのこ栽培・販売トレーニングを通じた自立支援事業 (特定非営利活動法人わびねす)
【現地の状況による企画の中止】	